

平成26年度 なんば駅周辺まちづくり構想具現化案

(なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会全体会資料)

2015年3月25日

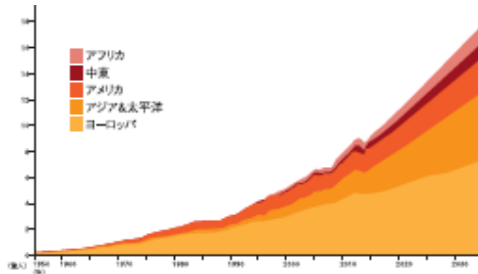
1. なんば駅周辺まちづくりについて

協議会の取り組み

■ 現状

■ 国際観光客数到着数の実績値と予測値

(出典: UNWT 『Tourism Towards 2030 Global Overview』)



■ 来阪外国人旅行者数 (出典: 大阪観光局)



① 車から人への賑わうまちづくりの潮流を踏まえる

- ・歩行者通行量 10万人超え(戒橋筋 24時間)
- ・関空の国際線利用外国人が630万人、外国人観光客1340万人の35%、470万人が大阪へ。
- ・大阪フリーWiFiのアクセス2位(南海なんば駅)

② なんば独特の歩く楽しさがある都市魅力と一体に～周辺魅力発信とまちにくりだす起点～

(待ち合わせ、シンボル、ビジターセンター、TKTS, 周辺エリアのPR, イベント利用など)

大阪が世界有数の観光都市になるには、ミナミの活性化が不可欠
観光都市として必要なインフラの再整備が急務

■ ビジョン(2013年3月)

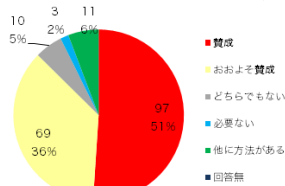
人が主役の回遊街なんば、世界中から訪れたいくなるまちの玄関

発信と表現の場！まちに繰り出す起点に



■ 2013

- ・協議会でアンケートを実施し、「賛成・およそ賛成」をあわせて87%に及ぶ。
- ・大阪市の御堂筋緩速車線社会実験協力。
- ・駅前広場活用アイディア公募とシンポジウムの開催により、社会的アピール。



協議会内アンケート結果

「賛成・おおよそ賛成」あわせて **87%**



御堂筋社会実験



シンポジウム

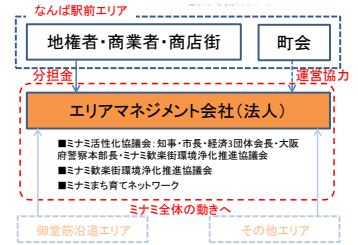
①利活用の仕組み(駅周辺の企業・商店街の幹部クラス、企画・流通クラスによるワーキング)

(1) 幹部クラスによるワーキング

- 公共空間を民間が管理運営する制度、組織、事業計画(活用の中身と収支)
⇒公共空間を活用したエリアの活性化に資することは良いが収支のバランスを見極める。(計画の具体化で深度化を図る)



公共空間活用WG



(2) 企画・流通担当者によるワーキング

- 具体的なイベントや持込企画の現状
⇒周辺施設からみた広場の優位性は、大きな音のでるイベントを開催できることと集客できる人数。現状、スペース等の問題でお断りしているイベントもある。
- 具体的な広場の利活用アイディア
⇒広場の日常使い、ハレの日使い、イベント使いが名所化。広場によって新しい集客を目指す。
- 利用頻度、利用料収入の目算
⇒周辺施設の利用状況から、休日で考えると年間52週のうち1/4は利用されるのではと推測できる。いかに、1/4以上の稼働率を上げるかが課題。

②歩行者空間化に伴う影響の検証(町会、商店街、沿道施設)

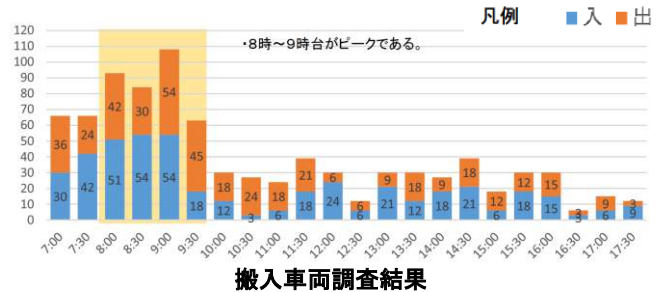
- 交通渋滞の懸念
⇒南向き一方通行であれば交通処理可能。(2010年に予測調査)
- 町会⇒全面歩行者空間化を希望。
- 商店街
⇒24時間歩行者空間化は厳しく、時間規制などの工夫が必要。
- 沿道施設
⇒搬入車両の進入が必要なため、一方通行はよいが、時間規制の歩行者空間化も厳しい。
- タクシー
⇒ショットガン方式(姫路や銀座ほか)の導入と利便性の向上を今後検討。



町内会会議



商店街会議



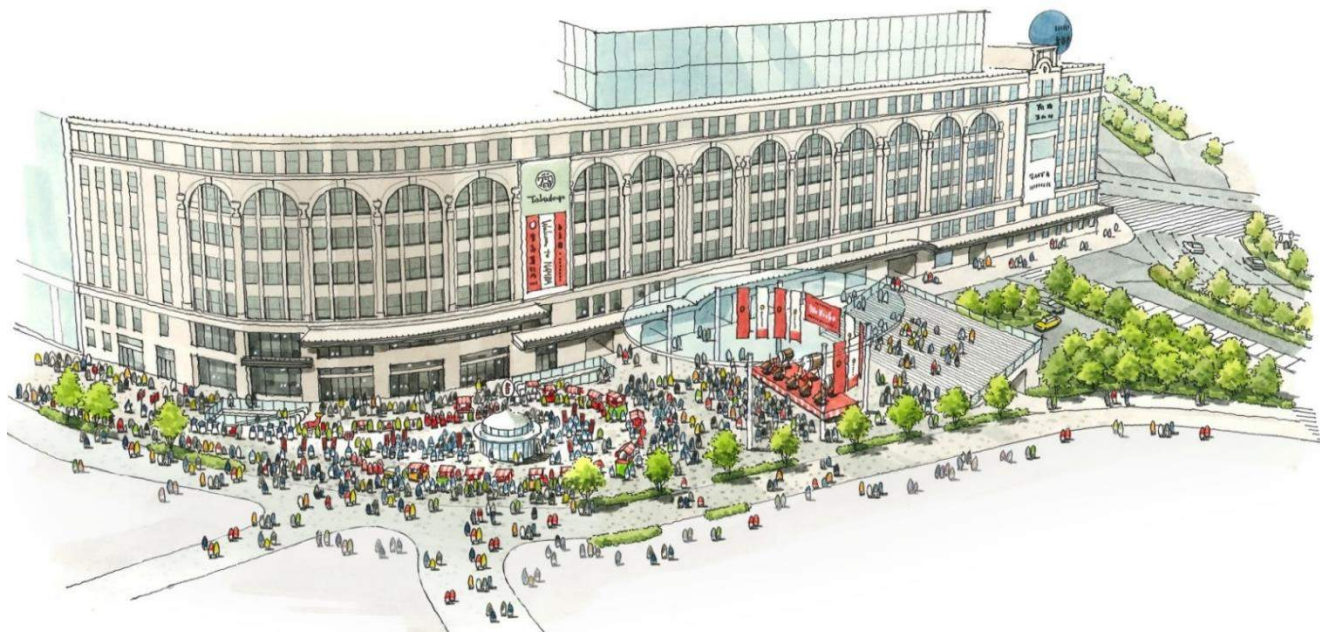
2014年度内に方針を地域合意→市に提言

③駅前広場のプラン案作成

④ロードマップ(※別紙資料)

- ・2020年運用開始のたたき台の作成。

2. なんば駅前広場のめざす姿



①インバウンドへの対応を踏まえた世界の玄関口に再編し、大阪全体に貢献。

大阪ミナミを感じるシンボリックな空間に再編し、旅行に来たら必ず訪れる場所、記念撮影、待ち合わせのスポットとなることを目指します。また、大阪、ミナミの玄関口として周辺の多様な魅力・施設の情報を発信できる仕組みをつくり、エリア全体の魅力を伝えます。

②大阪、ミナミの賑わいの起点になる。

駅前広場を活用し、世界的なイベントやお祭りを実施することで、世界中の人々が訪れたいくなるような場所を目指すと共に、そのようなイベントが発信されることで大阪、なんばの知名度を高めます。また、イベントが行われていない日常もオープンカフェなどを展開し賑わいを生み出すことで、駅前広場が常にワクワクする空間になることを目指します。

③安心してすごせる街になるように、有事には防災情報ステーションとして機能する。

災害時には、情報ステーションとして、駅前広場で災害情報を発信します。駅前で情報を発信することで、なんば駅周辺の来街者が安全な方法で次の行動をおこすサポートを行います。

3. 御堂筋の改造とセットで交通再編

交通の再編と歩行者空間化検証

◆御堂筋の道路再編イメージ

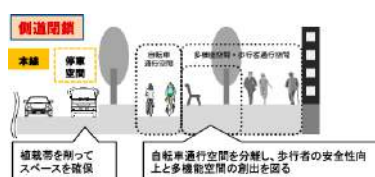
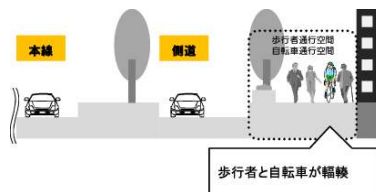
(南側:新橋～難波南口)

- 東西の側道を閉鎖し、車道を6車線から4車線に縮小することで、歩行者や自転車のための空間として新たに再編。
- 歩道を拡幅することで、新たに多機能空間を創出。
- 自転車専用の通行空間を新たに設けることで、歩行者と自転車の通行空間の分離を図る。

【現状】



【改造後】



◆なんば駅前広場周辺の交通再編案のポイント

①バス、タクシーの機能を確保しつつ、駅前広場を人の空間に開放

②タクシーの動線変更、ショットガン方式等検討、さらなるサービスの向上へ

※ショットガン方式:銀座の運用方式、都・タクシー業界等が連携し、渋滞解消のため2km離れた築地市場の駐車場に待ち行列を収容し、ショットガンのように現場に充当する方法。

※海外の方々にも利用していただけるよう、ミナミのウリになるサービスを拡充できないか。

③荷捌きや緊急車両は駅前広場・なんさん通りの南向き一方通行で対応

- ・町会→全面歩行者空間化を希望。
- ・商店街→24時間歩行者空間化は厳しく、時間規制などの工夫が必要。
- ・沿道施設→搬入車両の進入が必要なため、一方通行はよいが、時間規制の歩行者空間化も厳しい。

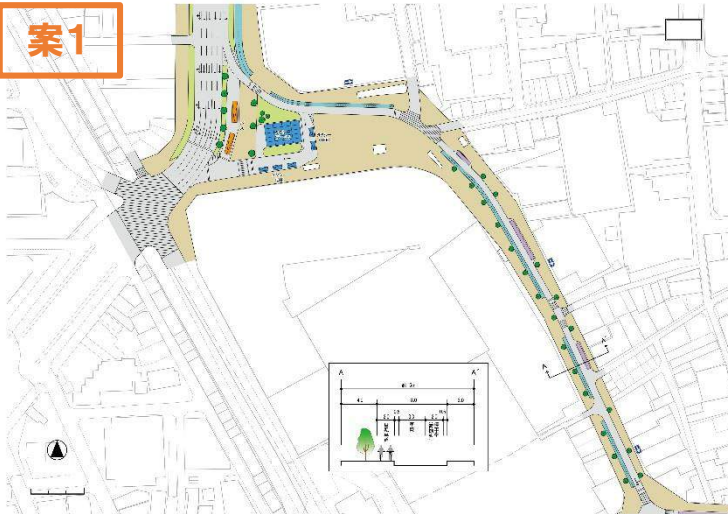


4. 駅前広場配置イメージ

◆駅前広場配置図

専門家に依頼し、様々な条件設定を行い駅前広場の配置イメージ検討を行っている。

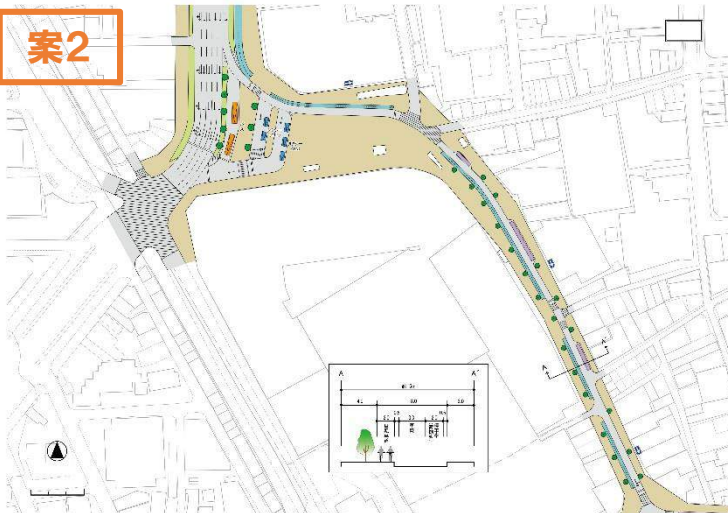
案1



案1:

- ・車両は一方通行を想定。
- ・タクシーバースは現状より台数減。

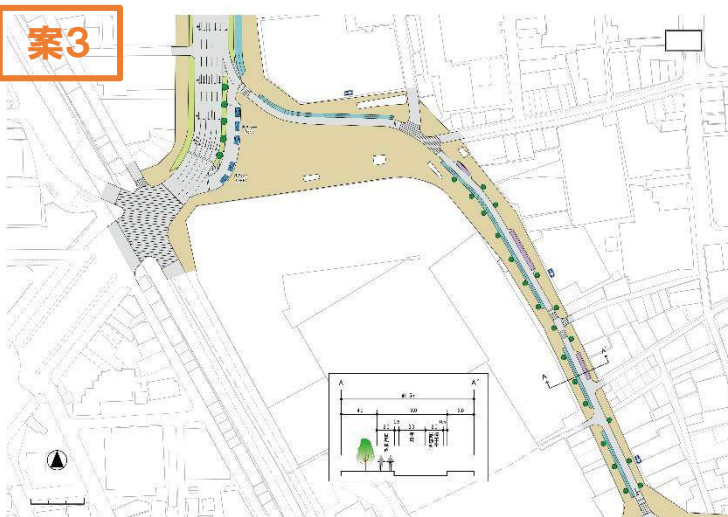
案2



案2:

- ・車両は一方通行を想定。
- ・タクシーはショットガン方式を採用。
- ・駅前広場の面積は約1,200m²。

案3

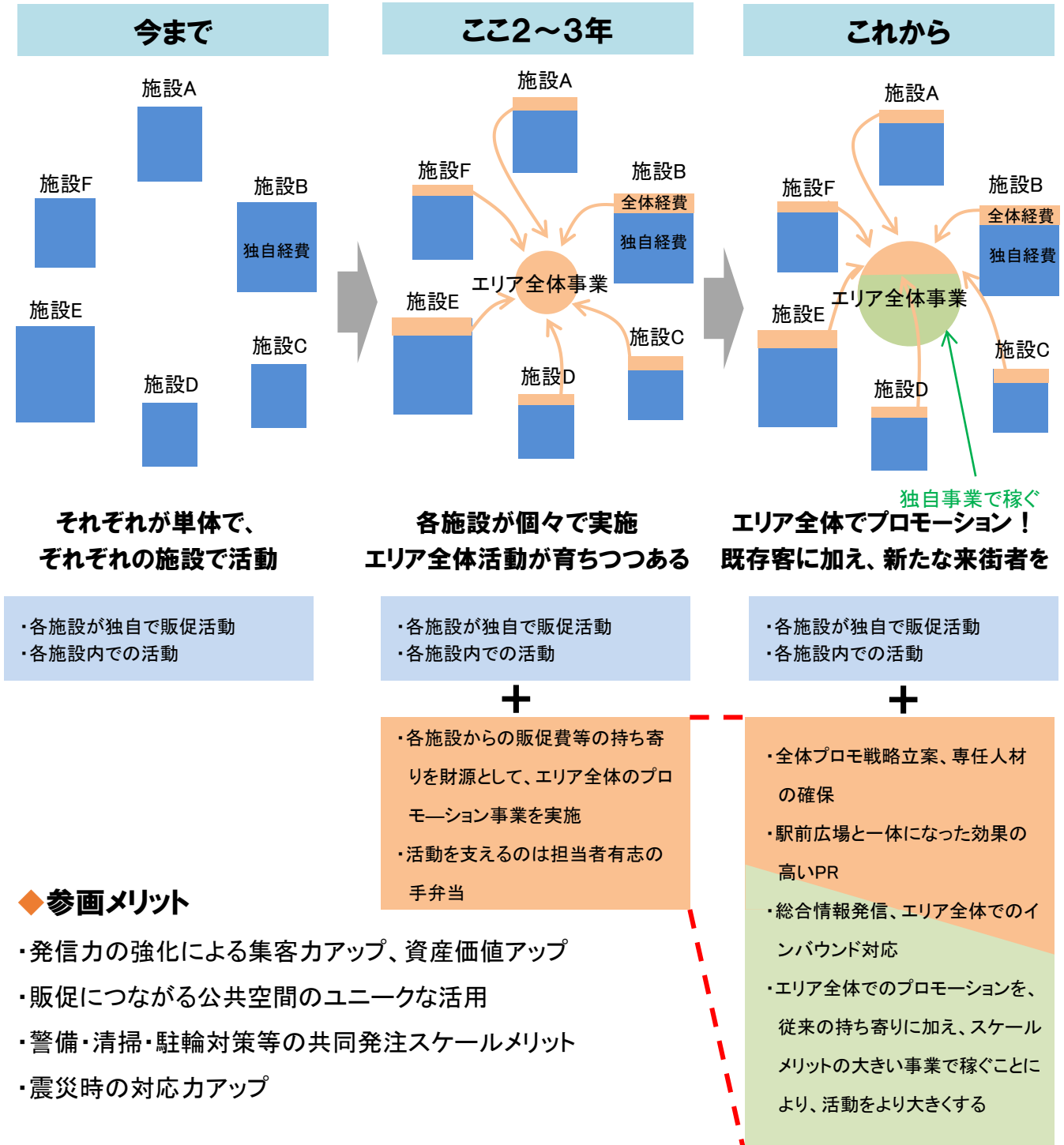


案3:

- ・車両は一方通行を想定。
- ・タクシーはショットガン方式を採用。
- ・バス乗降者スペースを駅周辺より移動。(駅近くに別のスペースが必要)

5. なんば駅前広場活用のメリット

施設単体・各企業ではできないことを広場を起点として、エリア全体で実施する



◆参画メリット

- ・発信力の強化による集客力アップ、資産価値アップ
- ・販促につながる公共空間のユニークな活用
- ・警備・清掃・駐輪対策等の共同発注スケールメリット
- ・震災時の対応力アップ

広場を構成員＆外部で使いこなす、
毎日何かがおこっている場に！
新たな来街者を誘客する！

6. なんば駅前広場の活用のアイデア

公共空間活用WGを通して、駅前広場の活用アイデアを検討した。

◆周辺施設からみたなんば駅前広場の活用アドバンテージ

- ・周辺施設内では難しい大きな音のでるイベントが開催できる。
- ・通行機能を確保する必要があるため、スペースのない周辺施設内や通路では難しい多くのお客さまを呼ぶことのできるイベントが開催できる。

◆広場活用のイメージ

「大阪ミナミの人」そのものが観光名所となる広場
大阪ミナミのローカル文化がにじみ出て世界に愛される場所となる

(1)ミナミの日常使いが名所化

(ミナミを中心に大阪南部を中心に地域振興とタイアップした企画)

〈例〉 なんば駅前屋台が集結、なんばde朝ごはん、オープンカフェ

(2)ミナミのハレ使いが名所化

地域のハレの日、人々のハレの日にミナミの広場が活用される。

〈例〉 なんば駅前結婚式、演説の名所化、歌舞伎・薪能特別公演、だんじり集結

(3)ミナミのイベント使いが名所化

①ミナミ地区の既存イベント会場として活用

〈例〉 ダンスイベント、いっとこミナミ、ミナミジャズフェスティバル、大阪ミナミ光マッセ！、宝恵かご行列、御堂筋フェスタ

②現在、周辺施設で受け入れることができていないイベントの開催。

現在も開催の要望があるが、施設環境(規模、騒音問題など)で開催が実現していない取り組みを駅前広場で実施する。

〈例〉 物産展、沿線PR、ミニコンサート

③新規の持込みイベント

駅前広場によって、ミナミのイベントの可能性を広げ、新しい取り組みを受け入れ、新しい集客を図る。

〈例〉 映画のPRイベント、マルシェ

広場の
日常使い

広場の
ハレ使い

広場の
イベント使い

ミナミの広場使いが名所化
広場があるからミナミを楽しむ人を増やす

7. 事業内容・収支のイメージ

◆収入

1. 構成員分担金 1,500万円

2. 広告収入 500万円(※算出根拠、広告代理店ヒアリングによる)

駅前広場に広告枠を設置し、広告収入を得る。

[参考事例]新宿ステーションスクエア OOH広告



3. イベント利用料 5,000万円(※算出根拠、広告代理店ヒアリングによる)

駅前広場を企業の商品PRイベント、物産展などの観光キャンペーン、各種セレモニーなどにイベントスペースとして貸し出し収入を得る。

稼働日: 平日 37日、土日祝 50日

(平日約15%、土日祝約40%の稼働率を想定)

貸し出し料金: 平日 40万円~50万円

休日 60万円~80万円

⇒上記金額を参考に以下の様に算出。

平日45万円×37日+休日70万円×50日=約5,000万円



▲イベント例

4. 固定施設賃料 1,000万円

公共空間に固定店舗等を設置し、賃料収入を得る。

5. 販促イベント 収支相殺

※推進体制のイメージ



◆支出

1. プロパー人件費(全体マネジメント) 2,000万円

広場をマネジメントするプロパーのプロデューサー、スタッフの人件費

2. エリア情報発信 2,000万円

ミナミインフォメーション／鉄道沿線情報／インバウンド観光

3. 警備・清掃・緑化・防災 2,000万円

4. 公共空間のマネジメント 1,000万円

デザイン監修／くつろぎスペース設置・自主プログラム展開／広告／イベント・活動誘致・運営支援／地域や教育機関連携／固定・仮設店舗等設置／ハードグレードアップ

5. その他 1,000万円

観光客誘致・販売連携／コミュニティサイクル、駐輪場設置運営／企業CSR支援／リサイクル

6. 販促イベント 収支相殺

※自主イベントは少なくし、世界一級のイベントを協賛とセットで誘致

◆収支イメージ一覧

※固定の自主財源確保による収支バランスの改善、稼働率向上の検討などを行い、さらに検討を進める

項目		金額
収入	1.構成員分担金	1,500万円
	2.広告収入	500万円
	3.イベント利用料	5,000万円
	4.固定施設賃貸料	1,000万円
	5.販促イベント	収支相殺
支出	1.プロパー人件費(全体マネジメント)	2,000万円
	2.エリア情報発信	2,000万円
	3.警備・清掃・緑化・防災	2,000万円
	4.公共空間のマネジメント	1,000万円
	5.その他	1,000万円
	6.販促イベント	収支相殺
合計		8,000万円

8. 公共空間活用のスキーム

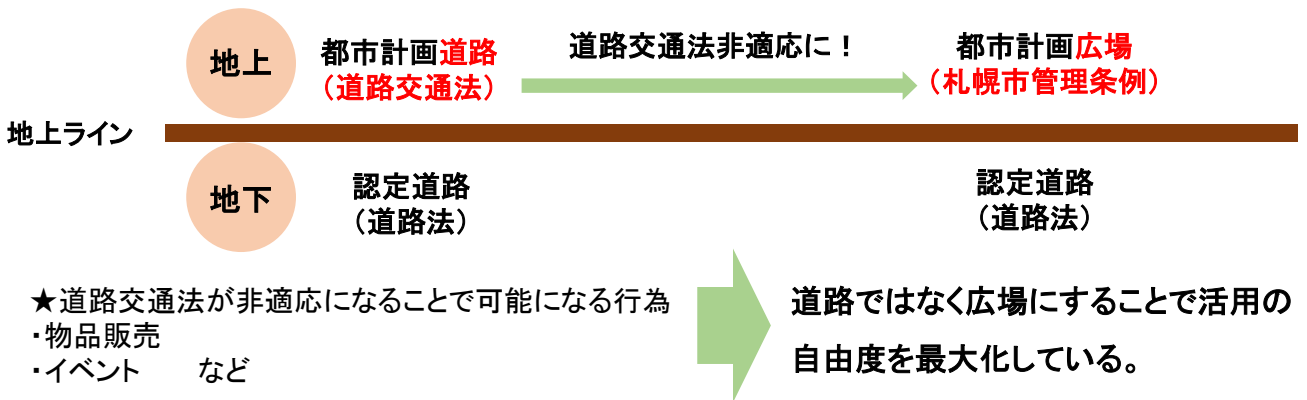
◆課題1 イベント利用等を可能にするための法的位置づけ

現在のなんば駅前空間は、都市計画道路として位置づけられており、イベント等で利用しやすい環境を整えるためには、法的な位置づけを見直す必要がある。

方法1：都市計画上の位置づけの見直し

例. 札幌北三条広場

北三条広場は、以前は都市計画道路だったが、隣接ビルの建設の際に開発民間業者からの提案を受けて平成19年に広場として都市計画決定した。地下に埋設物があるため、地上ラインより下、地下の部分は、道路法で管理している認定道路のままにしている。



方法2：道路空間のまま指定管理者(地元協議会)でイベント実施

例. 札幌狸二条広場、歌舞伎町シネシティ広場

方法3：道路空間のまま国家戦略特区によりイベント実施可能に

例. グランフロント大阪

⇒平成27年3月19日に認定。南北道路でのイベント実施可能に。

方法4：特例道路占用指定による活用

例. グランフロント大阪

⇒昨年指定、東西道路のカフェ・広告利用が可能になった。

ただし、イベント実施は基本的に不可。

◆課題2 資金調達の仕組み

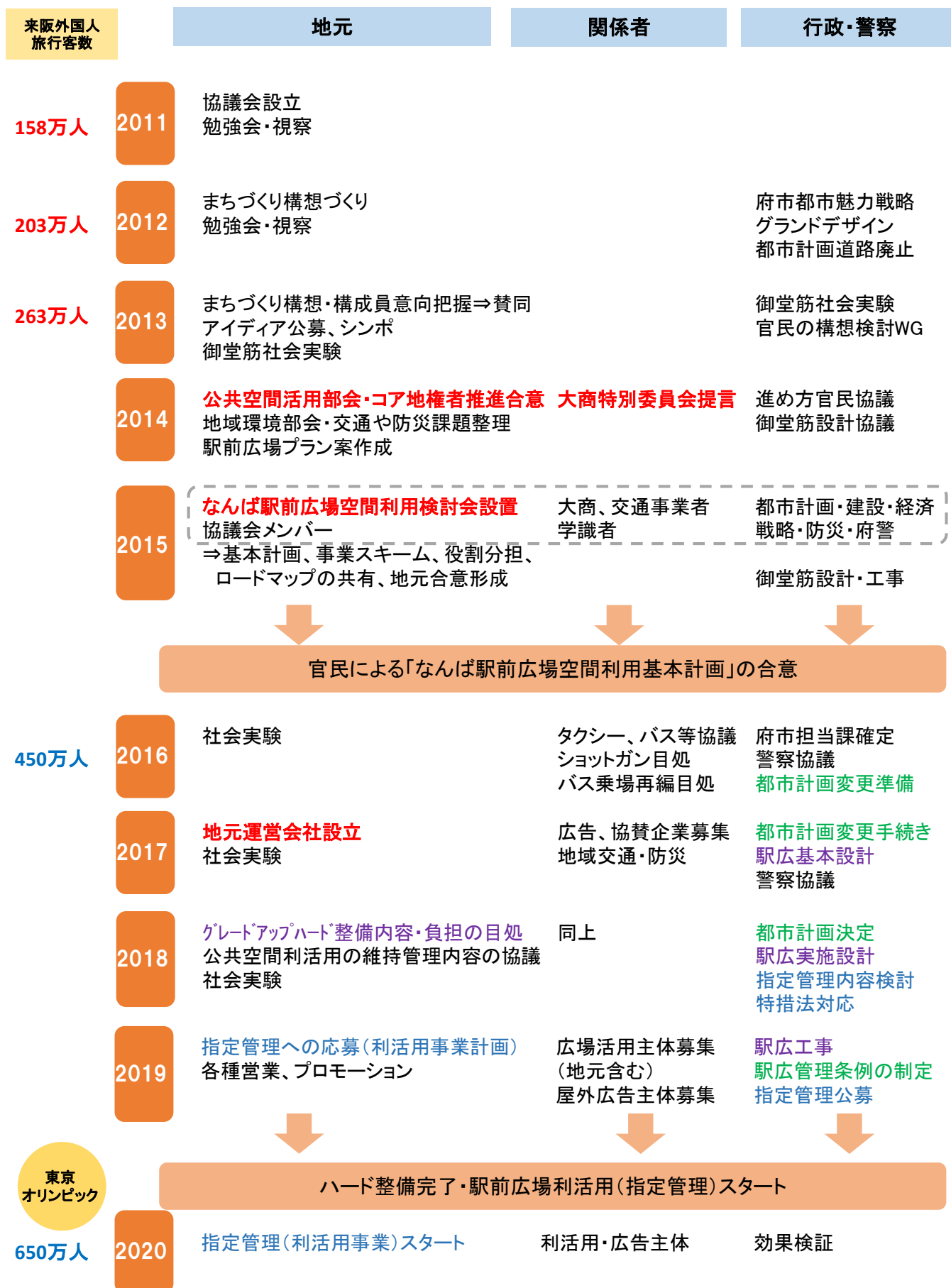
方法1：地元から一定のルールで会費徴収

方法2：BID条例にもとづき市が徴収し広場管理者に還元

※現時点では、対象は道路・広場などの公物管理に限定。

9. 事業化に向けてのロードマップ(案)

ロードマップ



※出典:大阪の観光戦略(大阪府・市2012.12)による目標値

10. 経済界(大商) ミナミの活性化提言

大阪商工会議所 都市活性化委員会(委員長: 銭高一善・(株)銭高組取締役社長)が、2015年2月25日、大阪におけるインバウンドの拠点として、ミナミの活性化をはかる提言をとりまとめた。これは、地元をはじめ幅広い企業をメンバーとする「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた研究会」(座長: 長谷川恵一・本会議所議員、都市活性化委員会副委員長)において2014年9月から検討してきたものである。

今回の提言で述べられている将来像「世界一歩いて楽しい観光都市“ミナミ”」実現にむけて、本協議会の活動も提言の中に盛り込まれている。

◆ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた研究会

座長: 学校法人エール学園長谷川理事長

アドバイザー: 大阪府立大学 橋爪教授

将来像実現に向けた戦略

1 歩行者回遊ネットワークの拡大

① シンボルとなる拠点・名所の整備活用

② なんば駅前広場の再整備

③ 沿線のファーストビル・モール化

2 エンターテインメント産業の創出、及び人材の育成

① アジアを代表するエンターテインメント拠点の創出

② インバウンド観光を支える人材育成機会の整備

3 回遊性を強化する交通マネジメント

③ ミナミ一体となったマネジメント組織の設立

4 ミナミから大阪・関西全体への発展につなげる展開

歩いて楽しいミナミに 外国人集客拠点へ提言

大阪商工会議所は、この提言を、大阪における外国人観光客の集客拠点とすることを提言する。これは、地元をはじめ幅広い企業とともに研究会で検討したものである。

近年、大阪都心部では、梅田やあべの・天王寺エリアの大規模開発が目撃され、大阪全体が活性化していくために、複数の代表的な拠点を、それぞれに個性を磨き、世界一歩いて楽しい観光都市“ミナミ”を将来に掲げ、そのための戦略として、歩行者回遊ネットワークの拡大に向けたシンボルとなる拠点や名所の再整備、エリア全体での情報発信のための「ミナミ」体となったマネジメント組織の設立」などを提言した。

今後は、先導プロジェクトと位置づける「なんば駅前の広場化」の実現に向け、大阪市に対し、官民による合同組織の検討や社会実験の実施を働きかけていく。

【問合せ】地域振興部 6944・63323

将来像実現に向けたアクションプラン(2020年に向けた先導プロジェクト)

1 なんば駅前の広場化

世界一歩いて楽しい観光都市“ミナミ”を実現するための第一歩として、なんば駅前に広場を創出し、地元と観光客の交流の場を創出する。

2 ミナミ活性化に向けたまちづくり組織の再編、機能分担

広域連携によるまちづくり組織の再編、機能分担の実現を目指す。

先導プロジェクトの進め方とスケジュール

STEP 1 (2015)	STEP 2 (2016-2018)	STEP 3 (2020)
① なんば駅前の広場化の実現に向けた検討・準備	② ミナミ活性化に向けたまちづくり組織の再編・機能分担の実現に向けた検討・準備	③ ミナミ活性化に向けたまちづくり組織の再編・機能分担の実現に向けた検討・準備

11. 官民のビジョン共有のための場づくり

なんば駅前の広場化に向けた検討準備会(仮称)の立ち上げ

◆趣旨

本会議所が平成27年2月にとりまとめた「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた提言」における、ミナミの将来像「世界一歩いて楽しい観光都市」の実現に向け、その先導プロジェクトである「なんば駅前の広場化」を進めるため、官民が連携した検討組織を設置し、広場の具体内容やそれに伴う交通再編等を検討する。

◆検討内容

○なんば駅前広場利用基本計画の検討

広場の再整備内容、それに伴う交通再編内容等の基本計画、整備および利活用の事業スキーム、等を検討する。

○基本計画の実現に向けた社会実験の実施

交通再編に向けた社会実験、広場活用に向けた社会実験等を実施する。

◆進め方(案)

1. 幹事会 : 随時開催

○検討準備会・検討会へ提示する基本計画のワーク・作成

将来像と事業スキーム、行政内のオーソライズ方法、官民&庁内役割分担の目処

《メンバー》 大阪市 都市計画局 開発調整部 開発計画課

なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会 事務局

大阪商工会議所 地域振興部

2. 検討準備会 : 2015年4月～6月(月1回ペースで開催)

4月: めざすべき将来像と事業スキームの提示、想定される課題の洗い出し

クリティカルの確認とスケジュール感共有、検討会の役割と移行タイミング

5月: 交通処理、都市計画変更、管理法制度、エリマネの具体イメージと合意形成プロセス

(同時並行で地元協議会において継続検討・合意形成を進める)

6月: 社会実験の実施の前提条件、御堂筋との連携、検討会への準備

《メンバー》 上記の幹事会に下記のメンバーを追加

行 政: 大阪市 建設局 総務部 企画課／経済戦略局 観光課／中央区／浪速区

3. 検討会 : 年度内に3回程度開催

7月: 検討準備会での検討経緯、活用アイデアや事業展開等のブレスト

10月: 基本計画(素案)提示、関係者の意向聴取、今後の検討シナリオと2016年度計画&予算案

2月: 基本計画(案)提示、社会実験案提示 → 官民全体合意

《メンバー》 上記の検討準備会に下記のメンバーを追加

【学識者】 大阪府立大学 教授・観光産業戦略研究所所長 橋爪紳也氏

【民間事業者】 なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会 メンバーから5者程度

(連合町会から1者、なんさん通り商店会、戎橋筋商店街振興組合、企業2者程度)

大阪市中央区南商店会連合会 、 大阪市浪速区商店会連合会

ミナミまち育てネットワーク 、 大阪観光局

新関西国際空港株式会社、 関西ツーリストインフォメーションセンター(JTB)

大阪市タクシー協会 大阪商工会議所都市活性化委員会

◆協議会の総意

2012年度 まちづくり構想(たたき台)のとりまとめ

2013年度 構想に関する構成員の大まかな賛同

2014年度 構想実現のための前述1～9の方向性

1. 今までの活動経緯の共有
2. 世界の玄関口、ミナミの起点、防災情報拠点の広場のめざす姿
3. 駅前広場を人の空間に開放し御堂筋とセットで交通再編
4. 周辺交通再編も含む駅前広場配置イメージの継続検討
5. 施設・企業単体ではできないことを広場を拠点にエリアに展開
6. 日常・ハレ・イベントを名所化する広場の活用アイデア
7. エリアのマネジメントの事業組織の立上げと事業計画イメージ
8. 広場の法的位置づけや資金調達など公共空間の活用スキーム
9. 2020年広場整備&運営開始のロードマップ

◆大阪市への要望

①官民ビジョン共有のための検討会の立ち上げ・参画

なんば駅前の広場化に向けた検討準備会(仮称)への参画、以下の2テーマの推進。

○なんば駅前広場利用基本計画の検討

広場の再整備内容、法的位置づけ、交通再編内容等の基本計画、整備および利活用の事業スキーム、等を検討する。

○基本計画の実現に向けた社会実験の実施

交通再編に向けた社会実験、広場活用に向けた社会実験等を実施する。

②大阪市としての主体的な構想への参画

参考資料:なんば駅前搬入車両調査

参考:交通の再編と歩行者空間化検証

なんば駅前の歩行者空間化での周辺店舗搬入動線に与える影響を検討するために、現状把握として、なんば駅前(主になんさん通り)で時間帯別の搬入車両台数調査を実施しました。

◆調査方法

[調査日時]2015/1/19(月) 7:00~18:00

[調査A]なんさん通りに路上駐車している車両の位置・台数。

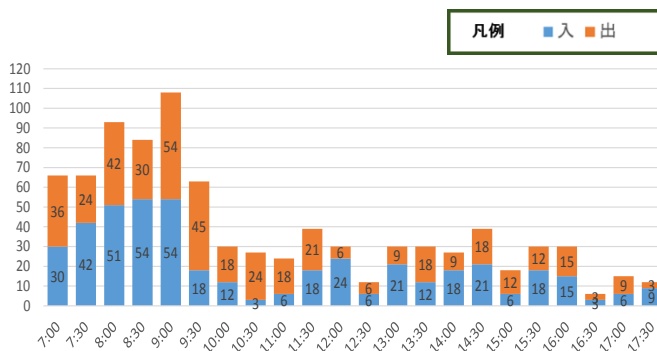
[調査B]各施設や道路に侵入する車の台数。

★調査B 調査ポイント

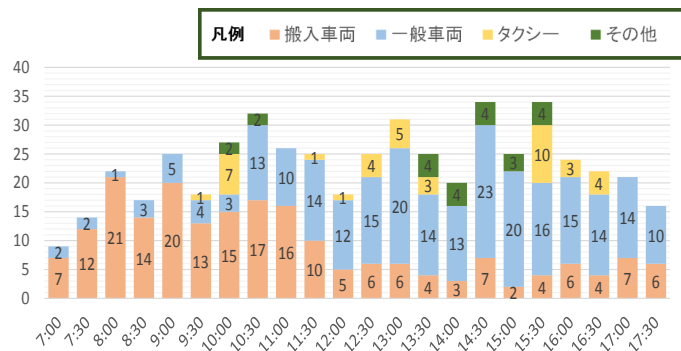
- | | |
|----------------------|-----------------|
| ①戎橋筋商店街 | ②なんば南海通り商店街 |
| ③UFJ 駐車場出入口 | ④LOFT・無印 駐車場出入口 |
| ⑤なんなんタウン搬入口 | ⑥なんなん会館横(道路) |
| ⑦Café Espresso 横(道路) | ⑧高島屋 搬入口 |



▲調査ポイントMAP



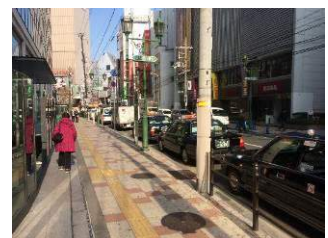
調査A結果 全体合計
(なんさん通り: 搬入車両、一般車両、タクシー、その他)



調査B結果 全体合計
(各施設・道路に侵入する搬入車両、
LOFT・無印良品、UFJは一般車両を含む)

〔調査A:結果〕

- ・搬入車両は、8~11時まで多く駐車されている。
- ・午後になると、搬入車両は減り、一般車両が増加する。
- ・なんさん通り西側は、なんば駅前の広場から、待機タクシーが溢れるとタクシーが駐車していた。
- ・一般車両では、「駐車禁止除外指定車標章」を掲げる車両が、長時間に渡って駐車していることが多かった。



なんさん通りに駐車するタクシーの様子

〔調査B:結果〕

- ・8時~9時台にピークがある。
- ・搬入車両の出入りが最も多いポイントは高島屋搬入口である。
- ・9:30より以前は、なんば南海通り商店街、戎橋筋商店街の進入が見られる。